様式第3号

自己評価報告書（最終報告）

報告者	授業実践・カリキュラム開発コース／小野瀬　雅人

■平成24年度の目標に対する自己点検・評価

Ⅰ．学長の定める重点目標

Ⅰ－1．科研費申請に向けた計画等

国立大学法人運営費交付金は年々削減され，教員の研究費配分も厳しくなってきており，教員各自が研究のための外部資金を獲得しなければならない状況である。そこで，科研費申請に向けて，あなたが考えているテーマと計画等について示してほしい。

1．目標・計画

○　昨年度、科研費（基盤（B)「学習基盤の形成を促進する書字力育成プログラムの開発」（平成23年度～26年度）が採択となり、分担者として書字技能学習の心理学的研究の立場から共同研究を進めている。昨年度は準備段階であったが、今年度から本格的に調査研究を展開する予定である。

○　これまで文献研究を進めてきた「サポート理論に基づく学習支援」に関する研究課題について、協同研究者を募り、科研費申請を行う。

2．点検・評価

○科研費（基盤（B))「学習基盤の形成を促進する書字力育成プログラムの開発」（平成23年度～26年度）については、平成25年2月16日に共同研究者と研究会を行い、調査用の質問紙内容の検討を行った。この質問紙により次年度調査を実施する予定である。

○今年度、科研費申請予定であった「サポート理論に基づく学習支援」に関する研究課題については、共同研究者が確定したが、各勤務校の業務多忙のため科研費申請までには至らなかった。

Ⅰ－2．大学院学生定員の充足に向けた取り組み

専攻・コースのこれまでの大学院学生定員の充足状況を踏まえた上で，あなたは定員充足のためにどのような取り組みを行うか，具体的に示してほしい。

1．目標・計画

○　教育委員会や教育センター等主催の教師対象の研修会講師を積極的に引き受け、教職大学院の取組についても説明し、志望者を募る。

○　学会主催の学校の教員向けのシンポジウムや講演会において、教職大学院の取組をまとめた資料を配布し、志望者を募る。

2．点検・評価

○　中間報告の後、教職大学院の主指導教員を担当している4名の勤務校において最終成果報告会と併せて、教職大学院のよさを宣伝し、志望者募集を行った。報告会の日程は以下のとおりであった。

・阿南市津乃峰小学校：平成25年2月12日（火）13時～14時
・徳島市上八万中学校：平成25年2月13日（水）14時～15時
・美馬市立江原南小学校：平成25年2月18日（月）15時～16時
・愛媛県四国中央市立土居小学校：平成25年2月20日（水）15時30分～16時30分

Ⅱ．分野別

Ⅱ－1．教育・学生生活支援

1．目標・計画

○　学部や教職大学院の学生が主体的に参加できる討論、実習、模擬授業を取り入れた授業を行う。

○ 教職大学院の学生が修了後も、勤務校の課題や研究についての相談・支援に積極的に応じる。

2．点検・評価

中間報告の他、後期の科目において以下のような取組を行った。

○　学校教育学部科目「授業研究論」において、講義内容の理解を促進するため、現職教員の行った模擬授業VTR映像を用いた授業分析の実習を取り入れた授業を行った。

○　教職大学院共通科目「教材教具の開発演習」において、「教材の意義」を理解するため、学会でのシンポジウム記録に基づくロールプレイ型授業を行い、授業生の授業評価から高い評価を得た。

Ⅱ－2．研究

1．目標・計画

○　学習指導に関する学校心理学的支援についての研究成果を学会等で発表する。

○　学内外の研究助成の公募に申請し、学外資金を調達する。

2．点検・評価

中間報告の他、年度後半に以下のような発表を行った。

○平成24年11月23日から25日に琉球大学において開催され日本教育心理学会第54回総会に出席し、自主シンポジウム「一般意味論を再び評価する」の話題提供として「学術的見地からの評価」と題して研究成果に基づき発表を行った後、シンポジストと討論を行った。
○平成24年11月23日から25日に琉球大学において開催され日本教育心理学会第54回総会に出席し、自主シンポジウム「授業研究の最前線」の指定討論者として、教職大学院において教師教育に関わり、また授業に関する研究を行ってきた立場から、シンポジストへの問題提起を行いその回答に基づき討論を行った。
○学習指導の学校心理学的支援の研究成果として、ミネルヴァ書房より『よくわかる学校心理学』（分担執筆）を出版できた。

Ⅱ－3．大学運営

1．目標・計画

○　教職大学院の専任教員として、その運営と広報活動に努め、定員確保や教育内容の質保証に貢献する。

2．点検・評価

○項目Ⅰ－2　大学院学生定員の充足に向けた取り組み　で述べたとおり、後期以降は、教職大学院の現職教員の勤務校で訪問指導や最終成果報告会を通して、広報活動を行いつつ、年度目標の達成に向けた取組を行った。

Ⅱ－4．附属学校・社会との連携，国際交流等

1．目標・計画

○　大学と地域・社会との交流・連携を積極的に行い、社会に貢献する。（社会貢献）

2．点検・評価

中間報告で示した内容に加え、後期では以下の取組を行った。
○平成24年度鳴門教育大学附属中学校研究授業の研究協力者として、附属学校教員のコンサルテーションを行った。

Ⅲ．本学への総合的貢献（特記事項）

中間報告で示した内容に加え、後期では以下の取組を行った。
○兵庫教育大学連合大学院の主指導教員としてD2学生1名とD3学生2名の計3名に対して博士論文の指導を行ってきたが、今年度、D3学生2名の博士論文が完成し、審査の結果合格し、平成25年3月26日挙行された学位授与式において博士（学校教育学）を取得することができた。